海外救援金にご支援いただいた皆様へ

©レバノン赤十字社

きもちのしるし

2019-2020

海外救援活動報告書

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

日本赤十字社は
皆様の温かなご支援を
困難な状況に置かれた人々へ
確実に届けます。

日本赤十字社は、皆様からお寄せいただいた救援金をもとに、紛争や自然災害に見舞われた世界中の人々のいのちと健康、尊厳のある生活を守るため、救援活動を行っています。この冊子では、主に2019年から2020年にわたり取り組んだ活動について報告いたします。

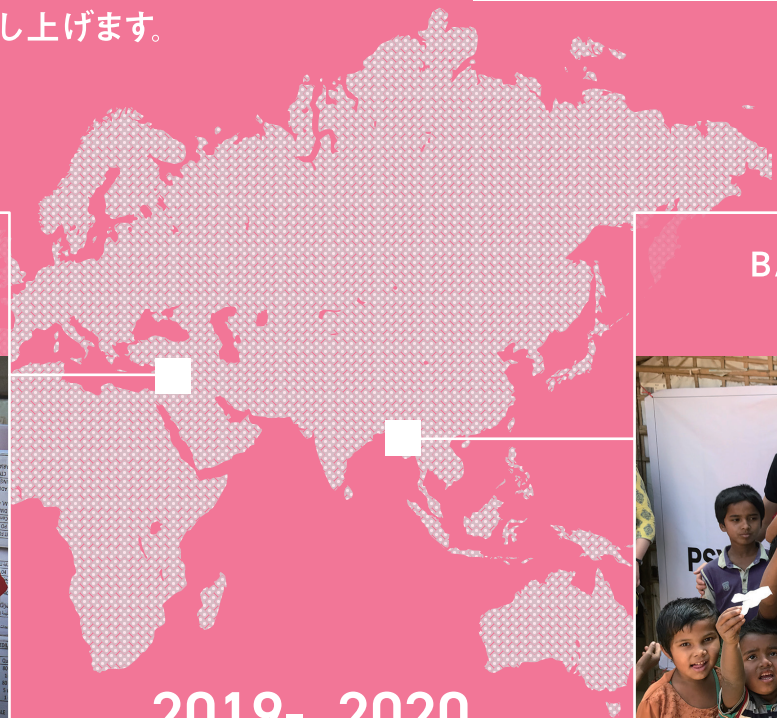
皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。

SDGs
（持続可能な開発目標）

この海外救援金事業は、SDGsの達成に貢献します

SDGsとは
国連が定めた持続可能な開発目標であり、民間企業等が「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し取り組む目標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2019- 2020
海外救援金の 主な支援先

MIDDLE EAST
中東
（イエメン・イラク・シリア・パレスチナ・ヨルダン・レバノン）

BANGLADESH
バングラデシュ

今こそともに助け合う

紛争地・被災地と新型コロナ ウイルス、赤十字は二重の危機に
苦しむ世界中の人々の 救援活動を行っています。

避難民キャンプにも迫る新型コロナウイルス

©IFRC

2020年3月からバングラデシュにおいても新型コロナウイルスの感染が拡大し、避難民キャンプへの出入りは最小限とされ、人道支援も届きにくくなっています。キャンプ内は家屋が密集しており、人との距離が取りにくく、さらに電話やネットの通信状況の悪さにより、新型コロナウイルスに関する正しい情報が得られにくい状況です。噂話や間違った情報も広まりやすく、人々の恐怖や不安は計り知れません。私たちは、避難民や地域の人々のいのち、生活を守るため、懸命に生きる彼らに寄り添いながら保健医療活動を続けています。

※国際赤十字では、政治的・民族的背景および避難されている方々の多様性に配慮し、「ロヒンギャ」という表現を使用しないこととしています.

活動の詳しい内容はこちら »

レバノン首都ベイルートでの大規模爆発災害

©Nabil Mounzer/EPA

2020年8月4日、地中海に面するレバノンの首都ベイルートで突然大地を揺るがす大規模な爆発が発生しました。爆発直後から、レバノン赤十字社は375人のスタッフ・ボランティアからなる救護チームと、計75台の救急車を現場に派遣し、新型コロナウイルス感染が拡がる中、懸命に負傷者の救助活動および救急搬送を行いました。12月現在も、災害からの復旧・復興に向け、ボランティアが各世帯を訪問して被災家屋の状況調査やニーズ調査を行い、人々に寄り添った支援を継続しています。

● 被害状況一覧（9月20日時点）

死者数	行方不明者	負傷者数	家を失った人	被災・影響を受けた子ども
200人	9人	6,500人以上	30万人以上	10万人以上

（レバノン政府発表）

活動の詳しい内容はこちら »

バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業

2017年8月にミャンマー・ラカイン州で発生した暴力行為から逃れ、隣国バングラデシュに避難した人々は、3年が経過した今も、避難民キャンプ内で先の見えない過酷な生活を強いられています。その数は86万人以上、その8割が女性と子どもたちです。日本赤十字社はバングラデシュ赤新月社とともに救援活動を開始し、現在は、避難長期化を見据え、地域の医療者や避難民ボランティアの育成を主軸とした保健医療支援を行っています。2020年3月以降は、新型コロナウイルスの影響で日本人要員は不在ですが、現地スタッフ、バングラデシュ赤新月社の医療者、避難民ボランティアが、人々へ保健医療サービスを届けています。

支援の受付期間 | 2017年9月22日～ 2021年3月31日予定

寄付金額 | 合計 9,543万 4,450円
（2020年10月31日現在）

診療活動

地域最大規模の診療所として、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、例年通り、多いときは1日に100人以上、平均でも70人前後の患者を診療しています。

診察した患者数 ≫ 95,592人

母子保健

助産師が、妊産婦健診、乳幼児健診、家族計画のカウンセリングを行っています。予防接種のため、WHOが毎月診療所を巡回し、子どもの健やかな成長をサポートしています。

母子保健サービス提供件数 ≫ 4,790件

地域保健

避難民自らがボランティアとしてキャンプに住む人々へ、感染症予防や保健衛生の促進活動、応急手当の普及などの活動を行っています。

家庭訪問回数 ≫ 87,258回
健康啓発活動 ≫ 実施回数 11,604回
参加者 68,499人

こころのケア

避難民の悲しみや不安に寄り添い、避難生活上の困りごとの相談にものっています。傾聴活動、創作活動のほか、英語講習やライフスキル習得支援も行っています。

こころのケア ≫ 81,042人

※2017年9月～2020年9月実績数（延べ数）

中東人道危機救援

（イエメン・イラク・シリア・パレスチナ・ヨルダン・レバノン）

2011年に始まり10年目を迎えたシリア紛争は、未だに1,200万人が自分たちの家に帰ることができずに避難生活を続けている、「第二次世界大戦以降最悪の人道危機」とも言われます。不安定な国内情勢で帰還の道が閉ざされ、国外で避難生活を送る難民の人たちは、限られた生活インフラの中、先行きも見えない中で暮らしています。中東ではシリアだけでなく、パレスチナやイエメンなどでも、厳しい生活を続けている人たちがいます。このような人たちを支援するため、日本赤十字社は2015年より、レバノンに中東地域代表事務所を置き、イエメン、イラク、シリア、パレスチナ、ヨルダン、レバノンで難民・避難民の方たちの状況を見据えて、中長期的な人道支援を強化してきました。紛争の苦しみや不安を少しでも軽減するため、人々に寄り添う支援を心掛けています。

支援の受付期間 | 2015年4月1日～2021年3月31日予定

寄付金額 | 合計 3億2,922万6,962円

※内レバノン爆発被災者支援受付状況
2,198万8,869円（2020年10月31日現在）

難民居住地域 水・衛生管理事業［レバノン］

インフラの整備されていないシリア難民の居住地域で、人々が安全な飲み水を確保し、健康を守る衛生的な環境作りを継続的に支援しています。水タンクや浄水フィルターを提供し、手洗いの方法など衛生意識を向上させることで新型コロナウイルスをはじめとする感染症の予防にも貢献しています。

パレスチナ難民医療支援事業

紛争により70年以上の難民状態が続くパレスチナ人を支援するため、現地の赤十字病院の医療技術支援を行っています。現地に派遣された日赤の医師・看護師たちが、地元の医療スタッフに必要な基礎技術を指導しています。（＊2020年4月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、遠隔支援にて事業を継続しています。）

診療所のおかげで母子ともに健康
[バングラデシュ]

ウマイラ・ベガムズさん（30歳）

ウマイラさんが生後8日目のイエシスくんを連れて、母子の健康チェックのため、診療所に来所しました。ウマイラさんは、出産前から定期的に産前健診に訪れており、妊娠中にしっかり健診を受けられたため、安心して出産できたそうです。「安心して利用できる診療所が身近にあり、大変ありがたいです。今後も地域の子どもたちがしっかり生き延びることができるよう、質の高い診療所活動を続けてほしいと切に願います。」と話してくれました。

ありがとうのこえ

ナディアさんは、シリア紛争が始まってから国を逃れ、9年前にレバノンにやってきました。7年前から他の5家族と共に一つの建物に住み始め、水道や電気等のインフラの整わない環境の中で暮らしています。子供のカーキンくん（4歳）は、足に障がいを持っており、トイレに連れていくのに大変な苦労をしていました。レバノン赤十字社がこの地域を定期的に訪問し、不十分な生活インフラの中でも健康を維持していけるように障がいに対応したトイレをアクセスの良い場所に設置したことで、足の悪いカーキンくんを簡単な介助でトイレに連れていけるようになりました。ナディアさんは、「この障がい者用トイレを設置してもらい、本当にトイレの介助が楽になりました。冬でも寒い外に出ずトイレや手洗いもできるようになり、赤十字の支援には、心から感謝しています！」と本当に嬉しそうに語ってくれました。

障がい者用トイレの設置で介助が楽に
[レバノン]

ナディアさん（27歳）

皆さまのご支援でできること

例えば...

5,000円で

バングラデシュで、石けんやタオルなどの衛生用品キットを約7世帯へ配付することができます。

10,000円で

レバノンに逃れたシリア難民の3世帯に、安全な水を確保するための浄水フィルターを提供することができます。

30,000円で

バングラデシュで、避難民ボランティア（約70名）が応急手当の研修を受講することができます。

これからも、災害や病気・紛争で苦しむ人を救うために

皆さまのご協力をお願いします

ご協力方法

郵便局・ゆうちょ銀行

お近くの郵便局窓口から
手数料無料でご寄付いただけます。

インターネット

スマートフォンやパソコンから、ご寄付いただけます。
また、銀行振込の振込先、クレジットカードでの
振込方法、事業実績等につきましてもQRコード
からご確認いただけます。

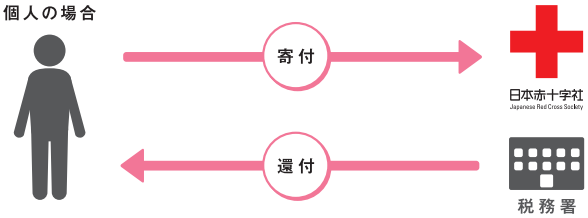
ウェブサイトへ

バングラデシュ南部
避難民救援金

中東人道危機
救援金

税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告をすることで、
税制上の優遇措置を受けられます



所得控除の計算式

A：年間所得総額ーB：（寄付金額ー2,000円）＝C：所得税課税対象額

※ただし、対象となる寄付金額は年間所得総額の40%が上限となります。

［お問合せ先］

日本赤十字社

〒105-8521　東京都港区芝大門1-1-3　活動に関するお問合せ：TEL 03-3437-7088
寄付に関するお問合せ：TEL 03-3437-7081
平日9:00ー17:00（土日祝日除く）

http://www.jrc.or.jp/　日本赤十字社　検索